

第109回「村長とのふれあいトーク」当日のやりとりコメント

【1】 小学校のいじめについて

いじめについて、1学期に事案（嫌がらせ、暴力、暴言等）が発生し、保護者会で重大な事案としたと報告があった。

その対策として夏休み期間中に反省会を行い、被害者をいじめないことと、他の人に危害を加えないことを約束したが、2学期が始まってからすぐに他の人に嫌がらせをしていた。

その他の対策として、担任の他に、先生を一人配置し、加害者を見守るようにしたが改善されない。

最近では、女子がターゲットになっていて、クラスの男子の半数が加害者になっていると感じている。暴言だけでなく、暴力や危険行為もある。

いじめ対策が強化されても機能していない。

⇒【村長コメント】

学校が状況を把握していて、状況が改善されないこと自体に問題がある。

また、心理的な嫌がらせだけでなく、暴力や危険行為もあるとのことであり、深刻に受け止めて、さらなる対策を講じたい。

取り急ぎ担当課に共有する。

【2】 買い物難民について

村松北の店舗跡地に新たな商業施設が出店する方向で進んでいたと思うが、保留になっているらしいと聞いた。理由を教えてください。

⇒【村長コメント】

担当課に確認の上、連絡する。

【3】 コミュニティバスの導入について

①村民の安全・安心で快適な生活のため。②国内外からの観光客誘客と産業振興のため。③災害時に全村民の避難を可能とするため。

以上3つの理由により、コミュニティバスの導入を提案したい。バス導入に向けては、委員会を発足し、国、県、村、各原子力事業所に協力を得て、予算を補助してもらって運営できると良い。

⇒【村長コメント】

村では以前、福祉バスが運行していたが、利用者が少なかったために廃止し、デマンドタクシーに切り替えた。現在は、AI等を導入して、無駄なく効率的に運用できるように研究を進めている。いずれにしても、利用者の目的に合った交通手段を用意するべきで、デマンドタクシーだけでは解決しない。

コミュニティバスの導入については、バス会社の需要を減少させる恐れもあり、現状として議論にまで至っていない。

村では、東海村地域公共交通会議において、地域公共交通の活性化等に関する議論を行っている。これまでの議事録を確認すれば、村の公共交通の現状や議論内容を把握できると思うので、まずは確認してほしい。担当課に議事録を共有するよう伝える。今回のご提案についてはご意見としていただく。

【4】 障がい福祉について

放課後等デイサービスは、18歳までが対象で、多くの人は支援学校を卒業後、就労支援に変わる。就労A型やB型、生活介護を利用していくことになり、送迎付きで、事業所では単純作業を行い、作業終了後は自宅で過ごすことになる。そうすると、人との関わりが極端に少なくなり、体を動かすことも減ってしまうため、『話す内容が幼稚になった』『できていたことができなくなった』『太ってきた』という話を聞く。

帰宅後に出かけたり、友達と遊びに行ったりできれば良いが、難しい人がほとんどである。また、子供が高等部を卒業したら、仕事を続けることができるのか不安に思っている保護者もいる。

日中の一時支援として、障がい者に対するサービスを行っている事業所も一部あるが、対象が当該事業所の利用者限定であったり、実施回数もバラバラである。また、日中の一時支援は収益に繋がらないとのことで、人員の配置が難しく、積極的に参入してくれる事業所がほとんどない。

そこで、村として、放課後等デイサービスのように障がいのある方が集まり、勉強やダンス、クッキング、工作等の活動をする場所を作ってほしい。

以前、なごみ内に障がい児の預かりがあったが、その障がい者版でも構わない。村での運営が難しいようなら、委託する等してほしい。障がい児への福祉サービスは充実してきたが、障がい者へのサービスはまだまだ手厚くない。18歳以上の方々が、今できることを維持もしくは向上させつつ、快適に生活できる東海村になってほしい。

⇒【村長コメント】

場所として、なごみを活用することは検討できるが、人員の問題がある。

障がい者親の会の中に指導員の代わりができるような方がいればよいのだが、村が支援員を直接雇用して事業を実施することは難しい。

今回のご意見に対して、どう考えているか、そういった場所を作る上での問題点は何か等、担当課に確認する。

【5】 東海第二原発の再稼働について

再稼働に賛成である。様々な意見があるが、村長はどう考えるか。

⇒【村長コメント】

安全対策については、基準があり、向上してきているが、今後も、自治体は避難対策、事業所は安全対策を確立していかなければいけない。反対する方の中には、水素爆発に対する恐怖心がある方がいると思うが、当時よりも安全対策は充実してきている。

また、再稼働については、国と県の意向も大きいですが、村としては、反対する方たちの意見も含め、多様な住民の意見を聞きながら、住民理解を得ていくことが重要となってくる。

【6-1】 こども食堂について

東海村“はぐもぐ”のお弁当配布について、東海村社会福祉協議会から情報が来たが、対象外だった。民間でやっているのだと思うが、その存在も今回初めて知った。

取手市の友人に聞いたところ、取手市では、“NPO法人こ・こ・ろ”が運営する子ども食堂があり、支援が充実しているようだ。行政は、子ども食堂のような事業活動はしないのか。

また、以前、なごみにあった“響”が無くなった影響は大きい。食事だけでなく、交流の場として様々な方が来て、その方たちの状況を把握できていたが、それがなくなってしまった。

⇒【村長コメント】

子ども食堂は、生活に困窮している家庭の子どもに食事を提供しており、食事を提供する場

としてだけではなく、子どもの居場所や、地域との交流の場にもなっていると認識している。

子どもの居場所としては、現在、学童クラブ等もあるが、子ども食堂のように安価での食事の提供はしていない。行政として、子ども食堂のような事業活動を行うことについては、現状として議論に至っていない。ご意見としていただく。

【6-2】 住民ニーズ（コミュニティや居場所）調査と対策について

村内のスーパーで、老人が長時間滞在しているのを見かける。適温だし、自宅にいと電気代がかかってしまうので滞在しているのだと思う。このような場を好んでいる方もいるし、代わりになるような場所を作ったとして、交流が嫌な人もいる。例えば老人ホームは、先住者がコミュニティを既に作ってしまっていて、新規の方は、なかなか入り込めないという話を聞いたことがある。

私は、買い物に行く機会があるため、そのような現状を把握できているが、行政は民間と違い市場調査を行わないため、現状を把握できず、住民の声が届かないのだと思う。村として、現状把握を進めて、状況を知った上で対策すべき。予算が無いなら国からの地方交付税を活用してはどうか。

⇒【村長コメント】

行政は、住民から相談を受けてから対応し始めるため、それ以外の見えない部分を把握することは難しいが、そのような方が増えている実態は、把握しておく必要がある。

行政も民間の発想を持ち、課題をできるだけ早く把握する必要があるが、子育て、就労、終活等、ニーズが広がっていて、そこをすべて調査することは難しい。

【6-3】 原発事故に係る避難について

避難訓練に使用されていたバスがノンステップバスでなく、階段付きのバスだったと聞いた。それでは障がい者の避難は難しいと思う。また、自宅に引きこもっている方の避難についても外に連れ出すことは困難だと思う。村民全員がきちんと避難できるのかを懸念している。

また、東海第二原発の再稼働条件が明確ではないように思う。

⇒【村長コメント】

避難する方は健常者ばかりではない。本来は福祉車両がふさわしいが、数が圧倒的に足りない。福祉車両の代わりに、通常のバスを使用することになるが、通常のバスにも限りがある。いずれにしても、車イスの乗り入れが可能なバスを確保しないといけない。

引きこもりについては、なかなか実態を把握できていないが、小学校、中学校あたりから休みがちになり、対処できないと、そこから引きこもりになってしまう。早いうちから手を打たないといけない。村では、学校へ行きたくても行けない、様々な理由で悩んでいる小中学生を支援する東海村教育支援センターを図書館の二階に設置する等して対策しているが、民間のフリースクールがないので、そこが課題である。

再稼働の是非については、国から県知事、県知事から関係市町村に意向確認をするという手順があり、村は議会にかける必要がある。

県では、市町村議会、首長、県議会の意見等を総合的に判断して最終的に国に意見を述べることになる。

【6-4】 原発事故について

過去、東海村で死亡事故が発生したが、その後も事故は発生していて、安全に対する意識が低く、過去の教訓が活かされていないように思う。そのような事故を繰り返す事業所を信用できない。

村では、事故を風化させないように、職員に向けて“JCO臨界事故の日を迎えるにあたっての村長訓話”を定期的に行っているようだが、当該事業所が事故を繰り返しているのはおかしい。事業所は自ら信頼を損ねている。

また、火災事故については、きちんと詳細を説明するべきだと思うが、**事業所**はその説明が不十分だと思う。重大な原子力事故に繋がる可能性があるのに、それが理解できていないのではないか。また、事業所からは、事故の報告書は提出されたのか。

原子力発電だけでなく、他の発電にしても、住民からの信頼が大切であり、信頼があつてこそ理解を得ることができると思う。

⇒【村長コメント】

注意していれば防げる事故が続いているが、一步間違えば、もっと大きな事故を引き起こしかねない。今年火災が連続しているが、村として厳しく指導している。原因究明と再発防止に努めているようだが、それが実際の現場まで伝わっている必要がある。

事故については、報告義務があるため、きちんと報告書の提出を受けている。

事故を起こさないのは当たり前で、起こした瞬間に積み上げてきた信頼をなくす。事故についてもう一度きちんと受け止めてほしい。住民から「信頼できない」という声が出ていることを、事業所に伝える。

【7】 ドックランの設置について

石神城址公園や現在整備している神楽沢近隣公園の一部、もしくは次に整備する公園があればドックランの設置を検討してほしい。

管理人を置く必要はなく、基本的には全て飼い主の責任となる。区画については、柵で囲ってもらえればそれで構わない。

⇒【村長コメント】

ご意見として伺う。